

日付:2015年3月22日／聖書:マルコによる福音書14:32～42

主題:「苦しむ神」

ここは「ゲッセマネの祈り」とも称される箇所である。この祈りの中で他の福音書には記されていない一文がある。36節「父よ、あなたは何でもおできになります」という部分。それはどういう意味か? 「あなたは全知全能の神であるのだから、できないことは何一つない。それならばなぜ私が死ななければならないのですか。全知全能の神がその奇跡的な驚くべき御力で、人間の世界から、罪をすべて取り除いてくだされば、事は解決するのではないのですか。」この言葉はそういう意味の祈りであろう。これは祈りというよりも、神に対する抗議と言うべきものかも知れない。神が本当に全知全能なお方であれば、もっともな抗議であろう。

しかし神は、そのイエスの訴えに、沈黙をもってお応えになる。そしてイエスは、神の沈黙の中で、神の奇跡的な介入が、意味をなさないことを改めて悟る。

イエスは、かつて荒野で石をパンに変えることの誘惑と闘われた。イエスはそれを悪魔の誘惑として退けた。石をパンに変えることができれば、飢えている人々の苦しみは一気に解消されることなのかもしれないが、しかしそれは、本当の解決ではないことをイエスは悟る。石をパンに変えるという奇跡によってではなく、パンを分かち合うという人間の行為を導き出すことによるのみ、本当の解決があることをイエスは確信し、そしてその後、それを人々に求め続けたのであった。

持っている者、奪っている者がパンを分かち合うという痛みを伴って初めて、飢える人々の苦しみは取り除かれると言うことをイエスは私たちに示しておられる。

イエスは、「この杯をわたしから取りのけてください」と、迫りくる人間の十字架の暴力に呻く。その呻きは、この世俗の只中に生きぬかんとする神の姿であり、神が人間と共に苦難を生きぬく姿として示しておられる。そこには、苦しみ、悲しむ者への慰めと希望があることを、ここから見出し出していきたい。(神谷)